

さくらっ子

輝くこころ 輝くひとみ 輝くからだ

三春町立中郷小学校だより

No. 11

H28. 10. 12

発行責任者 校長 橋本一弥



町学力向上推進委員会

授業研究会を開催 9月30日

本校の日頃の研究の成果を生かし、3学年の国語「ちいちゃんのかげおくり」の教材で「場面の様子の読み取りを深め、感じ方の違いに気づく授業」を町内の先生方に参観いただきました。魅力ある学習課題や根拠をもとにした話し合い、音読台本の活用など、提案がたくさんあり、研究協議もたいへん充実したものになりました。このような取組で、子供たちもぐんぐん力をつけています。

第2学期もよろしくおねがいします！

早いもので、今年度も折り返しとなり、10月11日より第2学期が始まりました。児童には、第1学期を振り返って、良かったところと努力すべきところをよく確かめ、めあてを見直したり新たに設定したりして、一層励んでくれることを期待しています。始業式では、勉強や運動を進めるにあたって次の2つをお願いしました。

① 漫然とではなく「工夫」をして進めること ～例えば、ノートの取り方～

② なかさどっ子キャッチフレーズを一層意識して生活すること ～特にゲームなどの時間の短縮～
ご家庭や地域でも児童の様子をよく見ていただき、よりよい生活習慣の中で、知恵を働かせて生活できるように助言等をいただければ幸いです。今学期も引き続きよろしくお願いたします。

学期の節目に際して、教職員の異動がありました。転出職員への多大なご支援に感謝申し上げますと共に、復帰しました職員へのご支援、ご協力をよろしくお願いたします。離任や復帰に際しては、子どもたちから心のこもったあいさつや感謝の歌、そして歓迎の気持ちが表されました。このような接し方ができるのも中郷小学校の児童の素晴らしいところで、本当にありがたく思います。

おかえりなさい、よろしくお願いたします。
高萩麻衣先生（5学年担任に復帰）



1年半ありがとうございました。お元気で！
新國杏子先生（須賀川第一小学校へ）



入賞おめでとう！

田村地区青少年読書感想文コンクール

準特選

- 6年 村上滉輔 さん
「二人から学んだ植物の命」
5年 柳沼空花 さん
「『オーガスト』に出会えて」
1年 柳沼菜乃 さん
「『ひみつのきもちぎんこう』をよんで」

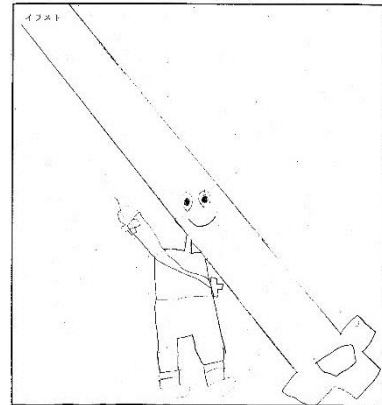
入選

- 4年 宗像珠稀子 さん
「『いつか』それは希望の言葉」
3年 橋本真央 さん
「『おかあさんのそばがすき』を読んで」
2年 橋本 蓮 さん
「『きみはほんとうにステキだね』を読んで」

交通安全ポスターキャラクター

最優秀賞

- 4年 影山愛梨 さん
「シートベルト君」



家族のきずなエッセイ募集

- 入選 5年 佐藤心結さん 「家族の笑顔」 6年 過足一輝さん 「家族の心を大切に」

子どもをたくましく育てるために

その8 新聞やテレビのニュースに関心を持たせる

～他の事例から学ばせるために～

「他山の石に学ぶ」という言葉がありますが、子どもにとっても大人にとっても、他の事例から学ぶことほど貴重な学びはありません。世の中で起こっていることからぜひとも自分自身を見つめさせ、生き方を考えさせたいものです。

そこでお勧めするのが、新聞やテレビのニュースを通して、世の中で起こっている様々な出来事に関心を持たせることです。大きな事件や事故の陰には、その原因があり、そこには人間の甘さや判断の誤りがあります。また、素晴らしい成果の陰には、予想をはるかに超えるような地道な努力や思いもつかないような発想があります。また、ほのぼのとする話題の陰には、普段なかなか気付かない他者への思いやりや心遣いなどがあるものです。

5・6年生であれば、ぜひとも新聞に目を通させたいところです。新聞は小学校の高学年であればある程度読めるように使う漢字に配慮がなされています。多少のわからない部分は飛ばしても、概要はつかめるはずですし、そうさせたいものです。そこから気になった事件や心に留まった記事などを話題にすることで、様々な人の生き方に触れることができます。また、中学年であれば、テレビのニュース等から話題を提供してあげることなどもいいことだと思います。

私は、子どもが小学校5・6年のころに、仕事から帰るのが遅くなってしまうことが多く、子どもとじっくりと話すことができない日も多くありました。そこで何とかしたいと考え、子どもに新聞の切り抜きをさせていた時期があります。気になった新聞の記事を切り抜いてコピー用紙に貼らせ、その下に簡単な感想を書かせるようにしました。週に2枚～3枚くらいを目標にさせていました。

最初は、関心のあるスポーツ記事ばかり切り抜いていましたが、だんだんに関心を持つ記事の範囲が広がり、様々な感想をもつようになりました。時間がある時には、そのことについて話題にするように心がけ、時間がない時には「面白い記事に気がついたなあ」とほめるように努めました。でも、積み重ねていくと、様々なよい効果が出てきました。

教育に新聞を！ということを推奨している団体もあり、学校でも新聞を使って授業をすることもありますが、時間は限られます。この取り組みを継続できる環境は家庭にあります。「家庭教育にぜひ新聞を」というのが私のお勧めです。